善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善　正　寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

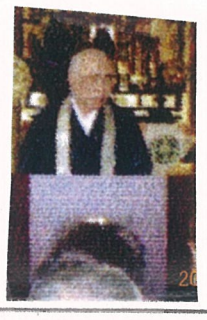
この世の苦悩も　悲しみも超えて
光に遇い　導かれる道が拓かれる

いつまでも暑い日が続いたためか、今年は亡くなられる人が多いようです。

去る9月上旬、奈良県のI先生（行年・97歳）が自宅介護の末亡くなられ、私も会葬させて頂きました。先生は、息子さんが40代半ばで事故死され、再び住職に復帰された悲しみの後も、月に一度の真宗講座を続け、遠近各地から多くの門信徒，法友の皆さんが先生を慕いお参りされました。布教使としても令名で、私どもの寺にも度々御出講頂き、熱心な温かみのある語り口で、先生をお慕いする方々が群参されました。

人生には3つの坂がある。上り坂、下り坂、そして「まさか?」…。後を託すべき息子さんの死という悲劇の「坂」を涙流しながらも乗り越えて行かれた原点には、親鸞聖人の後ろ姿に学ぶところが大きかったのではないか、と想像されます。

親鸞聖人84歳の年、いわゆる善鸞義絶事件が起きました。関東の門弟たちの間で生じた造悪無碍（悪いことをしたものも救われる）の異義を終息させるために派遣した長男・善鸞が混乱を収められず、却って門弟たちと対立し、聖人は「悲しきことなり」と嘆き、善鸞を義絶するに至りました。老境にしてこの悲劇はどれほど心を痛められたことか、想像を絶するばかりです。



しかし、それから約八か月後、85歳の二月九日明け方、夢のお告げにより一首の和讃を感得されます。聖徳太子の夢だと言われますが、

「弥陀の本願信ずべし　本願信ずるひとはみな　摂取不捨の利益にて　無上覚をば　さとるなり」（夢告讃）

という和讃です。「この和讃を夢に仰せを被りて嬉しさに書付まいらせたるなり」という添え書きが後日つけられたというのですから、暗い闇の中に光がさしたような感動だったのでしょう。

弥陀の本願を信ずるものは、弥陀同体の「この上なき覚り」を賜るのだ、とおっしゃる力強い示現を頂いた嬉しさです。老先生も息子さんに先立たれた悲しみを超えて、往生浄土の道を力強く歩まれました。この世の苦悩も悲しみもあるがままに、光に包まれる往生浄土の人生が拓かれるのですね。

☆行事ご案内☆

門信徒会例会　10月20日(日)朝8時半

報恩講準備の打ち合わせ、11/2のお非時（松花堂弁当）

申込10/27まで。複数も可。電話でも受付

報恩講 11月2日午後1時半　講師大竹輝道師

お非時弁当配布（申し込みは10/27まで）

11月3日午前10時講師貴島信行師（大阪）

午後1時三全仏教婦人会主催、貴島信行師

三重組十三日講 10月13日　延長寺様（菰野）

一縁会テレホン法話TEL 059・3543・1454

善正寺ホームページ 31年間毎月継続の**善正寺だより**と16年間毎日更新ブログ「**住職と坊守のつれづれ日記**」はスマホQRコードからご覧下さい。44万人閲覧

新納骨堂、後継者の無い方お墓でお困りの方ご相談を

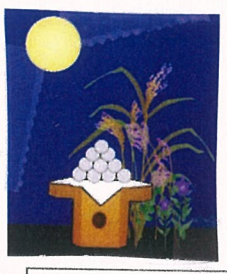
法事場所でお困りの方本堂使用可、日時寺に相談を

新共同墓『倶会一処』の石碑境内建立、銘板有り

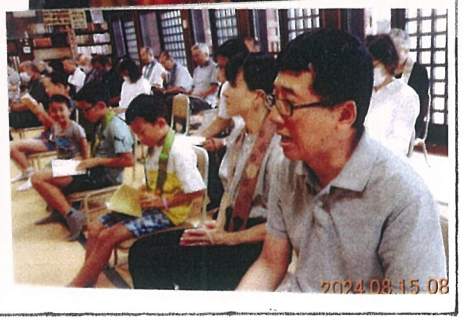
夕方5時の鐘撞き　どなたでも歓迎ご褒美あり

善正寺
ホームページ

住職と坊守の
つれづれ日記



☆　写真アラカルト　☆



坊守（ぼうもり）スケッチ

お墓の悩み相談

ある高齢のご夫婦がお墓のことで相談にみえました。

「以前に公営の霊園に墓地を購入しましたが、まだ墓石は建てていません。そこは丘陵地にあり、将来運転免許を返納し、坂道を上る体力も無くなると、墓石を建てるかどうか迷います。子供達は他県で家庭を築き、将来墓守はできないと宣言。毎年管理費だけは請求されますが、自分の両親のお骨もお仏壇に置いたままで、果たしてお墓を建てるかどうか迷っています」との相談でした。

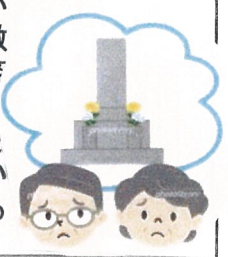
よく似た相談を最近しばしば受けるようになりました。近年は親と同居する家庭は少なく、嫁いだ娘さんだけとか、後継者がお一人様の家庭も結構あります。『墓守』と言うのは、封建時代の名残ではないでしょうか？

ある墓石屋さんが「最近はお墓を建てるよりも、『墓じまい』の仕事ばかりで悲しいです」と嘆いていました。

善正寺にも『墓じまい』を決断して納骨堂に納められたお宅がありました。お仏壇も有りますが、法事のお世話を一人でされるのは大変なので、本堂を使われます。寺は駐車場もあり、参詣者が多くても大丈夫です。椅子席で冷暖房完備、人数分の経本を用意し、老若男女が一堂に集い、声を合わせてお経を読み、お焼香をして頂きます。遺影の写真も心なしか微笑んでいるようです。続いて住職の法話を聞いて頂きます。初めて仏法を聞く機会を持った方も多いのではないでしょうか？法要後のお茶の接待は、寺族がお手伝いをします。その後納骨堂に移られて合掌礼拝して終了します。それから予約した会食会場へ向かわれます。

善正寺は法事以外にも、お盆やお正月、春秋の彼岸などで、本堂と納骨堂で、皆さんと一緒にお勤めします。

『墓守』が負担になり、『墓じまい』という言葉が通用して、色々なお墓の形態が誕生する時代になりました。お寺も時代と共に新しい仏法の伝え方を考えて、人々が求める寺として生まれ変わる必要があると思いました。



お悔み申し上げます

★**二之形英輔様**（81）8月18日往生　合掌
東坂部

★**鎮賢二様**（80）8月27日往生　合掌
小杉一丁目

カンパありがとう

伊藤鈴子様、TS様、IT様、ご縁さん他、切手や志、感謝申し上げます。

お知らせ

米11月2日報恩講のお非時（松花堂弁当）を行事さんが希望数を伺います。締切10月27日。複数も可、他所の方も遠慮なく申し込みのお電話下さい。

若坊守のことこと日記No.117

話は少し遡りますが、丁度お盆の時期に中学校の同窓会に出席しました。中高一貫校だったので六年間を共に過ごした仲間です。仲良しのグループでは数年ごとに会う機会がありましたが、それ以外は二十数年ぶりの再会で、ドキドキして会場へ向かいました。

今回幹事をしてくれた友人が「在学中に父親を亡くし、辛かった時期を友達が支えてくれた」と、当時知らなかった話を、挨拶の中で披露しました。

そんな彼女は社会福祉士で「同じく地元で医師をしている同級生の名前を、利用者からよく聞く」という話も教えてくれました。皆夫々の場所で活躍していると知り、誇らしい気持ちになりました。

私の学年は百二十人だったのですが、その中から結婚に至った同級生が八組もいてビックリしました。

青春時代を共に過ごし、家庭環境や価値観が近いからかもしれませんが、高確率に驚いています。

大人になった同級生に会い、夫々の活躍を聞き、子育ての話などもできて、充実した同窓会でした。次回は四年後に開催しようと決めました。

俳壇

秋風や動く体は宝物　釋妙水
甲子園終わればふるさと秋の風
葉書からはみ出す鬼灯届くなり
高原のお花畑や雲の峯　釋楽邦
せせらぎに元気百倍夏登山
猛暑にも負けず雑草延び放題
どっとなり三日続けて胡瓜揉　釋住安
焼茄子の皮をむきとり味噌を添え
かき氷ピンクと緑くらべをり
笹舟の行方知ってか鰯雲　釋妙梅
リハビリの老父の背なにも蜻蛉舞う
掘り易きよに埋め直されてお芋ほり
炎天や車少なき大通り　釋秀龍
日めくりの裏の落書き雲の峰
蝉しぐれ登校拒否の子の机
白樺の林を抜けて風涼し　釋清風
浜茄子や海峡に風渡りきて
平和なれ児ら鐘をつく終戦日

☆編集子より☆

「善正寺だより」370号をお届けします。◇残暑とは言えぬ、猛暑が長く続きました。四季でなく、夏と冬だけの二季の国に推移するのではないか、と嘆息することしきりです。◇長寿社会と言われるが、人情が薄れ、「生命の質的な低下」が感じられてならない。社会保障や福祉に財政的な給付が増えても、無縁社会では人間社会とは言えない。◇めぐりあいの不思議に気付き、ご縁、仏縁を尊ばれいのちこそ、人間らしい、質の高い人生ではなかろうか、と思われます。唯念仏、合掌。

台風や線状降水帯が全国各地に多大な被害をもたらしました。コメ不足から米を買い集める動き。51年前の「オイルショック」でトイレットペーパーを買い集めたのと似ています。作家で医師の鎌田實先生が3年前に不整脈からカテーテル手術を受けました。77歳で世界を飛び回って活躍中の先生が急に身動きできない身体になりました。硬意をものおし、剛染みの看護師に伝えると「紙オムツを付けているから大丈夫」との返答に、後始末のことを考えてじっと我慢しました。この経験を先生は「第一次老いるショック」と名付けました。私も最近ささやかな「老いるショック」を感じつつあります。異常があるとすぐに医者に飛んでいくので、診察券は増える一方です。長い待ち時間の医者通いで、一日がアッと言う間に過ぎます。人生百年時代の第四コーナーに差し掛かり、今後は「老いるショック」の連続ではないかと想像します。その都度「まさかこんな筈じゃない!」と後悔しないために、一日一日を丁寧に生きる感謝の心を持ちたいと思います。16年間夫婦で毎日続けているブログ「住職と坊守のつれづれ日記」と、32年間毎月お届けする寺報が、私達が歩んだ人生の証です。これからも皆様のお支えと励ましで継続できるように精進いたします。9月21日(土)22日(日)午後一時半は「秋季永代経」(加藤正人師)、11月2日3日は「報恩講」(大竹輝道師)(吉島信行師)。皆様のご参詣を心よりお待ち申し上げます。合掌

令和6年10月

善正寺坊守拝